

診ラシイト思ツタ患者がアツタノデ報告致シマス。

患者ハ四十二歳ノ男子、會社員。既往症、特記スベキモノナシ。

現在症。生來背部一面ニ五ツテ色素母斑ガアリ、何等異狀ヲ認メナカツタガ、約十年前階段ノ下二三段ヲ滑リ落チ仰臥ノ位置デ床上ニ倒レ腰部ヲ打ツタ後數日シテ腰部デ脊柱ノ兩部ニ股ガツテ横ニ細長イ瀰漫性ノ隆起ガ生ジ、其右ニ邊シテ輕度ノ自發痛及ビ壓痛ヲ伴フタ波動性ノ部分ガ出來タ、此ハ皮下溢血ラシク醫師ニヨツテ治癒シ、疼痛モ全ク去ツタガ、爾來此隆起部ヲ中心トシテ漸時不知ノ間ニ次第ニ瀰漫性ニ増大シテ今日ノ如キ大ナル腫瘍(寫眞)ニナツタ。所ガ本年七月十四日頃カラ突然ニ發熱(三十八度五前後)シ腫瘍ノ右側ニ激シイ疼痛ガ起ツタノデ予ヲ訪問シマシタ。觀ルト、顔面ハ蒼白デ營類モ少々衰ヘテ居ル様ダガ、胸、腹ニハ何等異狀ヲ認メナイ。背面ヲ見ルト色素母斑ガ上ハ恰度第一胸椎ノ邊カラ下ハ腸骨後緣マデ廣ガツテオツテ瀰漫性ノ囊狀ノ腫瘍ガ恰度大黒天ノ背ノ袋ノ様ニ腸骨後緣以下マデ垂レ下ガツテオリ、其上表ハ色素母斑ト同色デアアル。比較的營類ガ衰ヘテオルニモ關ラズ脊椎ノ隆起ハ頸部及胸椎ノ上部シカ認メル事ガ出來ナイ。此大腫瘍ノ右側ニ約手掌大ノ周圍トハ色少シク黒ク見ユル部分ガアル、別ニ隆起シテオル様デナイ。腫瘍ハ一般ニ彈力性軟ク熱感、壓痛ハナイガ、ヨリ黒イ手掌大ノ部分

會 報

即チ波動部ニ限局シテ壓痛ト熱感ガアル。體重ハ六〇斤。此波動部ヲ切開シテ多量ノ排膿(黃色葡萄狀球菌)ガアツテ、術後二十二日デ全治一時退院シタ再入院ハ九月六日デ體重ハ六十三斤デアアル。先キノ化膿性炎症ガ肉芽組織デ治癒後腫瘍ハ稍々急速ニ増大シタ様ニ見受ラレルシ、患者自身モ急ニ重クナツタ様ダト云ツテオル。手術、第一回ノ切除(一六四〇五)ハ九月十日、第二回ハ十月十三日(五六〇五)デアアル、其最初ノ切除標本ヨリ顯微鏡標本ヲ作ツテ見タ所、(一)比較的表面ニ近イモノデハ纖維腫デ、(二)比較的深部ヨリノモノデハ立派ナ黒色肉腫(紡錘形細胞)デアル事ガ判ツタ。成書ニ依レバ黒色肉腫ハ惡性デ血管ヲ淋巴管ヲ通ツテ迅速ニ轉移ヲ作ルモノダトサレテオルガ予ノ例デハ注意シテ檢ベタガ、觸レル範圍デハ轉移ト認ムベキ淋巴腺ノ腫脹ハ一ツモナイ。患者ガ十年前ニ外傷ヲ受ケ、爲メニ纖維腫ガ起リ、次第ニ瀰漫性ニ増大シタモノガ、最近少クモ化膿性炎症ガ起ツタ前後ニ其刺戟力、或ハ何等カノ事情ニコツテ纖維腫ノ一部ガ肉腫ニ變性シタモノデ、ソシテ未ダ著シイ轉移ヲ生ズルニ至ラヌモノデハナイダロウカ、即チ最初カラ色素母斑ヨリノ黒色肉腫デハナクテ、纖維腫ノ變性ニヨル肉腫デアツテ、加之「メラニン」ガ多量ニアルガ爲カ、ル像ヲ呈シタモノデアロウト思ハル、ノデア

第三回會計報告

(大正十四年十一月一日ヨリ 大正十五年十二月十日迄)

收入之部

- 本會基金(寄附) 五〇〇・〇〇
- 東京、大阪兩市債利子金(稅引) 一四二・一四〇
- 諸預金利子金 三九一・九九
- 講 讀 料 一一三・〇〇

特別掲載超過頁代附圖代餘分

- 別 刷 代 二九九〇・三七
- 代理店(雜誌賣渡金) 八四・四八
- 廣 告 代 五・一〇
- 計 六五〇・六三四
- 前 回 繰 越 金 二六九三〇・六九
- 合 計 三三四三七・〇三

支出之部

第二卷六號ヨリ
第三卷六號マデ
雜誌發行費
雜誌發送料及其材料代

九八四・五二
圓

諸謝金

二七四・六四

通信費

四〇九・〇〇

廣告用紙二千枚

六・一六

原稿用紙三千枚

一四・〇〇

帳簿

一四・七〇

計

一五・九〇

差引 殘高

一〇五七八・九二

右殘高内譯

大阪市電氣事業公債(額面一萬圓)

二二八五八・一一

東京市上下水道公債(額面一萬圓)

九九六五・〇〇

十五銀行定期預金

九八四六・五七

十五銀行特別當座預金

二〇五七・〇三

郵便貯金

三九五・〇二

振替貯金

四二九・五六

現金

一一四・三八

合計

五〇・五五

右之通御報告申上候

會計幹事

入會者

玉置 辨吉

外科研究室

山地 定

熊本縣上益城郡大島村字上島

轉居

本田 憲章

朝鮮全羅北道々立全羅醫院

高木 四郎

岐阜縣大野郡大各田町字花里

○寄附

今回大分市中尾儀三郎氏ヨリ本會基金中
へ金貳百圓也ノ寄附アリタリ。謹ンデ謝意
ヲ表ス。